

紹合部少張

住吉社

建喜門院北西

三





何社歌合

嘉應二年十月九日



題

社頭月

旅宿時雨

迷懷

作者

尤

正三位藤原朝臣實定

從二位行權大納言藤原朝臣實房

大法師俊惠

散位從四位上藤原朝臣清輔

正三位行左兵衛督藤原朝臣成竹

注

後三位行龙近衛權中將藤原朝臣實家  
大皇太后宮小侍從

正四位下行內藏頭兼大皇后宮亮平朝臣經盛  
散位正四位下藤原朝臣公重

女御家兵衛佐

元二条院参河内侍

女御家兵衛督

正四位下行中宮亮藤原朝臣季經  
称宜從四位上賀茂政平

正五位下行九馬權頭兼淡路守平朝臣經正  
攝政家卿

後五位下行刑部大輔平朝臣廣盛

前齊宮大輔

散位從五位下藤原朝臣伊繼

大法師祐盛

從五位下行皇后宮權大進藤原朝臣邦輔  
駿河權守從五位下藤原朝臣朝宗

飛彈守正六位上源朝臣宗長

元通清

前齊宮中納言

法眼和尚靜賢

沙弥寂念

右

皇太后宮大夫兼右京大夫藤原俊成

從四位上行右京大夫源朝臣賴政

正三位行權中納言兼左衛門督藤原朝臣實國  
參議從三位行左大弁勘解由藤原朝臣實綱

散位從四位下藤原朝臣盛方

散位從五位上藤原朝臣教賴

正四位下行右近衛權中將藤原朝臣實弁

從四位上藤原朝臣賴輔

法眼和尚位圓實

正四位下行左近衛權少將藤原朝臣脩範

正四位下行右近衛權少將源朝臣通親

從五位上行右馬權頭藤原朝臣隆信

散位從五位上藤原朝臣親重

從五位下行隱岐守源朝臣仲綱

散位從五位上源朝臣季廣

大律師智經

從五位下行中務少輔藤原朝臣定長

散位從五位下藤原朝臣季定

散位從五位下藤原朝臣憲盛

右大臣家堀川

散位從五位下藤原朝臣懷綱

正六位上藤原朝臣憲經

沙弥素覺

沙弥寂超

前右大臣家輔

讀師

講師

左後五位下行皇后宮權大進藤原朝臣邦輔  
右駿守權守從五位下藤原朝臣朝宗

判者

正三位行皇后宮大史兼右京大史藤原朝臣俊成

一番社頭月

龍腸

正徳藤原朝臣實定

千載

ちよびつらうのひともまひてほし昔とわや何乃の月

右

正徳行皇居冥兼京大夫藤原朝臣俊成

あつちんをなほそけふつらうの月とある後これ海  
なすじつとあつちんやすつらうの月とつらうの  
とつらうの月とつらうの月とつらうの月とつらう  
れんをなれつらうの月とつらうの月とつらうの  
ちよびつらうの月とつらうの月とつらうの月とつらう  
何のつらうの月とつらうの月とつらうの月とつらう  
えん

ちよびつらうの月とつらうの月とつらうの月とつらう  
つらうの月とつらうの月とつらうの月とつらうの月

二番

めやちあしとねうきくうととくし

左勝

後二位行権大納言藤原朝臣實房

いひくわらなをみまき霧のさけぬや月丸光あは

右

從位上行右京左源朝臣賴政

すらすらあさくさくど佐吉のそけり月丸光あは

ちきくうらあつくくくはつひきあは

くも

ちきく嘆作らんそりふ月をさあまけりやん

まらくまをいひくくあめれとを

くまあや月のさくくすくくああ

んくくくくく

三番

左勝

大法師俊惠

<sup>十載</sup>すくくく松のせくわいのもくくくくくくく

右

正位行権納言兼左近衛藤原朝臣実綱

恒吉れくくくくくくくくくくく

ちちあめくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくく

くくくくくくく

四番

左勝

散位後四位上藤原朝臣清輔

月丸光あはくくくくくくく

右

参議從三位行左大臣勘解藤原朝臣実綱

Handwritten text in cursive style, likely a letter or document, written on the right page of the open book. The text is dense and fills most of the page.

Handwritten text in cursive style, continuing from the right page or as a separate section on the left page. It appears to be a continuation of the letter or document.

五番

尾掛

聖徳行尤藤持藤原朝臣威尊

Handwritten text in cursive style, located below the '尾掛' section. It appears to be a signature or a specific address line.

右

敬位後四位下藤原朝臣盛方

Handwritten text in cursive style, located at the bottom of the left page. It appears to be a closing or a separate line of text.





ちうらうしし社歌月うあひつあひつ  
とこせあはほつらうあひつあひつ  
ちののし紫やあひつあひつあひつ  
わらんあひつあひつあひつあひつ  
あひつあひつあひつ

八番

左勝

五位上行内藏頭兼右大臣亮平朝臣鑑

すしう此松吹風のなをいこしうあひつあひつあひつあひつ

右

後四位上藤原朝臣頼輔

あひつあひつあひつあひつあひつあひつ  
あひつあひつあひつあひつあひつあひつ  
あひつあひつあひつあひつあひつあひつ  
あひつあひつあひつあひつあひつあひつ  
あひつあひつあひつあひつあひつあひつ

あひつあひつあひつあひつあひつあひつ

九番

左

散位五位下藤原朝臣公重

あひつあひつあひつあひつあひつあひつ  
あひつあひつあひつあひつあひつあひつ  
あひつあひつあひつあひつあひつあひつ  
あひつあひつあひつあひつあひつあひつ

右勝

法眼和尚位圓實

すしう此あひつあひつあひつあひつあひつ  
あひつあひつあひつあひつあひつあひつ  
あひつあひつあひつあひつあひつあひつ  
あひつあひつあひつあひつあひつあひつ  
あひつあひつあひつあひつあひつあひつ  
あひつあひつあひつあひつあひつあひつ  
あひつあひつあひつあひつあひつあひつ  
あひつあひつあひつあひつあひつあひつ  
あひつあひつあひつあひつあひつあひつ  
あひつあひつあひつあひつあひつあひつ

そゆのふゆふゆれ  
ちゆまののまゆりまゆれ繁りしつるまののこ  
しゆまの月のあつたよしゆまのこ  
あゆらあゆらすらやしゆまのこゆかゆか  
と月あつくゆれしちのくらとこゆかゆか  
ゆか

十番

左持

女御家共東伝 元系院冬河内傳

まるとみかちを格あけてすしほの月乃光とゆかゆか  
右 霞下行左近衛權將藤原朝臣倫範

あつた月のあつたよしゆまのこ  
たす月のあつたよしゆまのこ  
ゆか

十一番

左持

女御家共衛替

ちゆまののまゆりまゆれ繁りしつるまののこ  
しゆまの月のあつたよしゆまのこ  
あゆらあゆらすらやしゆまのこゆかゆか  
と月あつくゆれしちのくらとこゆかゆか  
ゆか

右

正位下行右近衛權將源朝臣通親

すしゆの月乃光とゆかゆか  
くまのあつたよしゆまのこ  
たすの月乃光とゆかゆか  
あつた月のあつたよしゆまのこ

しゆよら入びつそりわりのりよるよそね

十三番

虎持

五位下行中宮亮藤原朝臣季經

すのけり月のきみみくわく曇とらんぬあはしよまひん

右

五位上行右衛門権頭藤原朝臣隆信

俊吉のまら指り入月を志の思のひりそねまら

なす月のむらうゆつまよみけりゆりゆり

まゆりよのさるんぬおはしよまゆて

あくちあわらひしよそのふしゆりゆり

色かすしよしよひらりわらんや

ちああらわらひかひあつやうなれまら

りこしよしよ月しりひらりなり

あしよゆれしやれ端さこのあしやす

毎しこれとあ社月たごはしよまの四神をり

こそまらゆらいつとせつたらなれし勝負を

らりわり又ねおとる

十三番

虎

祢宜従四位上賀茂政平

すこられわらうらゆと松のとたえよりうら月をまら

右

五位上藤原朝臣親重

まあれらあまひめ藤そなた月とよせれらま

たあうしゆらうゆさしゆらゆり

やまののうよわらうらまじゆり

ゆりゆり

ああ月とまひひれやうらあしゆり

くらもらうらゆり

十番

左持

正五位下行 龍馬權頭 兼 淡路守 朝臣 經

任はもあぬらぬれこころの月とまりや 祢乃ゆひひふらん  
後五位下行 隱岐守 朝臣 仲經

右

後五位下行 隱岐守 朝臣 仲經

白ぬの雲とくれん風はして月とまりとみよりを松  
月とまりの優よりかろぬらぬかやりのことわ  
ころの弁合は基後のこころのひり判ま  
こゆらぬころのひりゆりころのころり  
あゆりゆりゆりゆり  
ちのまは月りゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

十五番

左勝

攝政家卿

こころの雲とくれん風はして月とまりとみよりを松  
右  
敬位 後五位上 源朝臣 季廣

すまのころの雲とくれん風はして月とまりとみよりを松  
ちのまは月りゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

十六番

九持

後任下守刑部大輔平朝臣廣盛

復吉乃まのの指よふのゆきはにりちとふとふり月乳  
右 大法師智經

すまうれはふまの枝よふと波よ月のちゆめひとくま  
ちちととりにわつとらなくゆめとらぬ物  
かこく

十七番

九持

前舞宮大輔

月と移つともものうられふのふらちと雪のあはつと  
右 後任下守中務少輔友宗朝臣定長

わし吹まのの指よふり晴く神とらうやすくはの月  
たすつとりのうららしてあつとゆふとくも  
ねよとつとふのふらかられぬて月れいら

はちつとりのならくとらんゆきとくも  
とつとふとあやわくもくみつとれたゆ  
とあれたゆきとくもくもくもくもくも  
わつと  
ちちとらうととらうととらうととらうととらう  
らとあくとなむらとあつとあつとあつと  
ちちとらうととらうととらうととらうととらう  
いらつとあつととらうととらうととらうととらう  
とらうととらうととらうととらうととらう

十八番

九持

散位後五位下藤原朝臣伊總

とふ月とをのつちやとむらんとあつとすくもくも  
右 散位後五位下藤原朝臣季定

いかにあはれのゆゑにわがあまのつらもりの月の霧よとてとやあはれ  
たふ優りたるゆゑにほのつゝのこゝろにさへあはれ  
しとのやあはれに  
ちかきうらさきとやあはれにさへあはれに  
と格きししとあはれにさへあはれに  
しめくよひにさへあはれにさへあはれに  
まうとさうらつとさへあはれにさへあはれに

十九番

左

大法師祐盛

はらまう月が光やとみうのまれんちのさあはれちと  
右勝  
散位後五位下友原の長善盛  
凡のすいなまのうらさきとあはれにさへあはれに  
たふとさうらつとさへあはれにさへあはれに

とた地のひらねにさへあはれにさへあはれに  
さへあはれに  
ちかきうらさきとあはれにさへあはれに  
んらさきとあはれにさへあはれに  
なまのうらさきとあはれにさへあはれに  
のわじやあはれにさへあはれに  
らとさうらつとさへあはれにさへあはれに  
右勝

二十番

左勝

後五位下行皇后宮権大進友原の長善

あはれにさへあはれにさへあはれにさへあはれに  
右  
前大政大臣家堀河  
さうらつとさへあはれにさへあはれに

注言

十四

た秋のよはくよ秋のりこひきあうらうり  
つたのよはくよ秋のりこひきあうらうり  
とく入なむやうらうりこひきあうらうり  
ちやんきんそとそとあうらうりこひきあうらうり  
ちやんきんそとそとあうらうりこひきあうらうり  
ちやんきんそとそとあうらうりこひきあうらうり

二十番

左

藤原朝臣宗

右勝

後五位下藤原朝臣懐徳

久し月とひらきやうきくまのうらみひきあうらうり  
た月とひらきやうきくまのうらみひきあうらうり  
ゆきくまのうらみひきあうらうり

ひらきやうきくまのうらみひきあうらうり  
ちやんきんそとそとあうらうりこひきあうらうり  
ちやんきんそとそとあうらうりこひきあうらうり  
ちやんきんそとそとあうらうりこひきあうらうり  
ちやんきんそとそとあうらうりこひきあうらうり

二十番

左勝

藤原朝臣宗長

右

正六位上藤原朝臣憲經

ちやんきんそとそとあうらうりこひきあうらうり  
ちやんきんそとそとあうらうりこひきあうらうり  
ちやんきんそとそとあうらうりこひきあうらうり  
ちやんきんそとそとあうらうりこひきあうらうり  
ちやんきんそとそとあうらうりこひきあうらうり







右新あけしよ...  
あはれ...  
ねの...  
けつ...  
撰集...  
ひく...  
り...  
ら...  
か...  
し...

何となく

二番

虎勝

静賢

あはれ...  
あはれ...  
あはれ...

右

寤起

あはれ...  
あはれ...  
あはれ...  
あはれ...  
あはれ...

二番

虎

中納言

あはれ...  
あはれ...  
あはれ...

右勝

素寛

佳吉

きし跡すらむらみまはせむいふのほあむら  
 ちうらむらむらむらむらむらむらむらむら  
 らむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
 むらむらむらむらむらむらむらむらむら  
 らむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
 むらむらむらむらむらむらむらむらむら

四番

虎持

源宗長 元通清

あひねむらむらむらむらむらむらむらむら  
 らむらむらむらむらむらむらむらむらむら

右

藤原憲經

らむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
 らむらむらむらむらむらむらむらむらむら

らむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
 らむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
 らむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
 らむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
 らむらむらむらむらむらむらむらむらむら

五番

虎持

朝宗

らむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
 らむらむらむらむらむらむらむらむらむら

右

懐總

らむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
 らむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
 らむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
 らむらむらむらむらむらむらむらむらむら  
 らむらむらむらむらむらむらむらむらむら

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

六番

左持

邦輔

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

右

堀河

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

七番

左持

祐盛法師

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

右

憲盛

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

八番

左

伊總

あられめさうらほふあむし〜  
右

兼定

ひらり縁にあられはまゝの接敷にあら〜  
左  
もま〜  
ち〜  
り〜  
れ〜

九番

左勝

大輔

〜  
右  
正長

あ〜  
左〜  
す〜  
え〜  
右〜  
あ〜  
あ〜  
あ〜  
あ〜  
あ〜

十番

左持

廣盛

あ〜  
右

智持

あ〜

たぢたの神あつひははつとくしつらう  
なりたるまゝのなほつらうのまゝ  
ひげらうらうらうらうらう

十一番

左勝

卿

あつたやううらうらうらうらう

右

季廣

あつたやううらうらうらうらう  
あつたやううらうらうらうらう  
あつたやううらうらうらうらう  
あつたやううらうらうらうらう  
あつたやううらうらうらうらう

十二番

左

強司

あつたやううらうらうらうらう

右勝

仲總

あつたやううらうらうらうらう  
あつたやううらうらうらうらう  
あつたやううらうらうらうらう  
あつたやううらうらうらうらう  
あつたやううらうらうらうらう  
あつたやううらうらうらうらう  
あつたやううらうらうらうらう  
あつたやううらうらうらうらう  
あつたやううらうらうらうらう  
あつたやううらうらうらうらう

十三番





るまの霧分三つうらゝの衣志らるゝまはひかそらう

右勝

通親朝臣

後援

しきうらゝの霧分三つうらゝの衣志らるゝまはひかそらう

らまの霧分三つうらゝの衣志らるゝまはひかそらう

らまの霧分三つうらゝの衣志らるゝまはひかそらう

らまの霧分三つうらゝの衣志らるゝまはひかそらう

らまの霧分三つうらゝの衣志らるゝまはひかそらう

らまの霧分三つうらゝの衣志らるゝまはひかそらう

らまの霧分三つうらゝの衣志らるゝまはひかそらう

らまの霧分三つうらゝの衣志らるゝまはひかそらう

らまの霧分三つうらゝの衣志らるゝまはひかそらう

らまの霧分三つうらゝの衣志らるゝまはひかそらう

らまの霧分三つうらゝの衣志らるゝまはひかそらう

十六番

丸

無精作

系統のひのうらゝの霧分三つうらゝの衣志らるゝまはひかそらう

右勝

脩範朝臣

すれらるゝまはひかそらうの霧分三つうらゝの衣志らるゝまはひかそらう

たのうらゝの霧分三つうらゝの衣志らるゝまはひかそらう

らまの霧分三つうらゝの衣志らるゝまはひかそらう

ちかあまの霧分三つうらゝの衣志らるゝまはひかそらう

らまの霧分三つうらゝの衣志らるゝまはひかそらう

らまの霧分三つうらゝの衣志らるゝまはひかそらう

は彼のうらゝの霧分三つうらゝの衣志らるゝまはひかそらう

十七番

丸勝

公重朝臣







いづれののりかきとていふはさか  
るはさかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか

二千三番

左勝

後惠法師

載  
右  
いづれののりかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか

実国卿

いづれののりかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか

二千四番

左勝

実房卿

載  
右  
いづれののりかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか  
さかきとていふはさか

頼政右衛門

らよのいぬきつれりきんかきりつらり  
つらりつらりつらり

あやうきつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらり

二十五番

左勝

実定

<sup>玉葉</sup>つらりつらりつらりつらりつらりつらり

右

俊成卿

あふれつらりつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらり  
えつれ

一番 迷懐

左勝

兵衛佐

つらりつらりつらりつらりつらり

右

備前朝臣

つらりつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらり

つらりつらりつらりつらりつらり

註









願宮或列羽林蘭菫うまう  
りくわらむじんのわらうやま  
りらんやうけゆふゆふゆふ  
しるわんやうの人もおる  
ちやくのうひはふをなま  
いこまはまあわれのら  
あまのりれはく見申のは  
やうけふれんしそのは  
しものゆきやきうそ  
とらふ人地つうなれは  
暫あむ

### 八番

七

後惠法師

よの中とうまはさけい  
あふはりのすくはれん

右勝

実因卿

家乃風りつめれうよす  
ちうさうさうつやうひ  
やあまをまむつらう  
えいさうつやうつら  
ちれのとろとわつや  
ゆきとわつや

### 九番

七

実房卿

いさそそなだれゆめ  
のつらうまはつらう  
いづつとまうとけり  
のゆきあつらう

右勝

頼政卿

たふむりのとこはらうらむらへ  
ちやわしきさりのしよはつ  
うらうのさしりうらへ  
おらうらうら

十番

左勝

実定眼

<sup>十載</sup> 蔵 右

後成卿

かたあれはへきはまきりせは  
た奇うれのくも  
ねいせいりら  
おんれおはらう那  
おまのいおほはら

乃いせのゆ  
ちやわしきさりのしよはつ  
ちよのく又すあ  
よみやれわい  
愚老乃拙  
定在左欵と

十一番

左

共流傳

ゆまーくうはせはあひわ  
か勝 通親おる

とみのぬれうま  
た奇うらうは



ちなめたたくむわうりききとらめうはた  
りいて淵濱の浪たのくよわうたれたて  
よまげきとれあうゆりくからゆほうとて  
りつゆとすうい荒涼とやういゆらんあ  
たち後云よあうううーちらつひあれり  
よわり旨言難懸隔勝方可木同

十四番

左勝

經正

んあめて幾世のわん後者のまの風と邪をひ

右

仲徳

世中とよふらちうらしてはたかへあつらう  
たち乃迷懐ちちあみや右しつち徳め  
うんたきうらうらうらうらうらうらうら

ちらよの中とようらうらうらうらうら  
あうらうらうらうらうらうらうらうら  
地りうらうらうらうらうらうらうら  
うらうらうらうらうらうらうらうら

十五番

左

卿

わのうらうらうらうらうらうらうらうら

右勝

季廣

すうらうらうらうらうらうらうらうら  
あうらうらうらうらうらうらうらうら  
海いおらうらうらうらうらうらうら  
ちちかうらうらうらうらうらうらうら  
かうらうらうらうらうらうらうらうら

十六番

左 信

廣盛

ふんぞり人たれなむやきりけるも戸まれの音の下水

右

智徳法師

あうじな世のいぢりてあはれくしてまのれ後者  
ころちのうぢりいぢりあまほしき  
るあうぢりいぢりあまほしき  
まうぢりい

たのきにのきりあうぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりい  
まうぢりいぢりい

十七番

左 勝

大輔

すいぢりなごのうぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりい

右

定忠

なまぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりい  
たあぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりい  
なりい

ちぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりい  
のいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりい  
すいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりい

十八番

左 持

伊徳

すいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりい

右

季定

すいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりい  
すいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりいぢりい



集

二十一番

右持

朝宗

~~~~~ぬゝ地坤の今と色~~~~~

右

懐徳

~~~~~の~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

二十二番

右

深宗也

~~~~~

右勝

友原憲経

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

二十三番

右持

中納言

~~~~~

右

素覺

~~~~~

七



うのちちさのさかきさかきさかき  
おののちちさのさかきさかきさかき  
おののちちさのさかきさかきさかき  
おののちちさのさかきさかきさかき

二十四番

左お

勢覚

たのめさかきさかきさかきさかき  
おののちちさのさかきさかきさかき

右

兼助

おののちちさのさかきさかきさかき  
たすまらさかきさかきさかき  
おののちちさのさかきさかきさかき  
おののちちさのさかきさかきさかき

二十五番

左お

兼吉

おののちちさのさかきさかきさかき  
たのめさかきさかきさかきさかき  
おののちちさのさかきさかきさかき

右

佐

おののちちさのさかきさかきさかき  
たのめさかきさかきさかきさかき  
おののちちさのさかきさかきさかき  
おののちちさのさかきさかきさかき  
おののちちさのさかきさかきさかき  
おののちちさのさかきさかきさかき  
おののちちさのさかきさかきさかき  
おののちちさのさかきさかきさかき



九

公重	經盛	小侍從	實家	成範	清輔	俊惠	實房	實定
持勝一負	持勝二負	持勝一負	持勝一負	持勝一負	持勝一負	勝二負	勝二負	勝三

右

圓實	賴輔	實守	敦賴	盛方	實綱	實圃	賴政	俊成
持勝一負	持二負	持勝一負	持勝一負	持勝一負	持勝一負	勝一負	勝一負	負一

祐盛	伊綱	大輔	廣盛	卿	經正	政平	季經	兵衛督	兵衛佐
持勝一負	持二負	持勝二負	持勝一負	勝二負	持勝一負	持一負	持勝一負	持一負	持勝一負

憲盛	季定	定長	智經	季廣	仲綱	親重	隆信	通親	脩範
持勝一負	持勝二負	持一負	持二負	勝一負	持勝一負	持勝一負	持勝一負	持勝一負	持勝一負

伯吉

邦輔 持勝二

朝宗 持勝一 負一

源宗朝 持勝一 負一

中約言 持勝一 負一

靜賢 持勝一 負一

寂念 持勝一 負一

四二

据河 持勝二 負一

懷細 持勝一 負一

憲經 持勝一 負一

素覺 持勝一 負一

寂超 持勝一 負一

依 持勝一 負一

建春門院北面哥合

嘉應二年十月十六日

題

關路落葉 水鳥近馴 臨期違約懲

作者

左方

右方

按察使公通卿

皇太后宮大支俊成卿

前大納言實定卿

備中權守重家卿

權大納言隆季卿

清輔朝臣

權大納言實房卿

右中將實家卿

左衛門督實國卿

左京權大支賴政朝臣

左大辨實經卿

右少將澄房朝臣

右中將實守卿

右馬權頭隆信

左少將脩範朝臣

右少將通親朝臣

散位盛方朝臣

勘解由次官親宗

散位李廣

伊豆守仲經

判者

皇后宮大史俊成卿

一番 岡路落葉

左持

按察使公通卿

右

皇后宮大史俊成卿

越原うてゆまゝ見行くみゆりかみりみり此後まゝの  
 久し此本の系にみらさうけりて名流之とて白川に  
 乃新よりみらさうけりて名流之とて白川に  
 一くしそみえゆれしちあひ判るはけしなれ  
 あとの系よゆきりやのみ流へあつて作志とせし  
 せしむゆい白川此實と名りてなれぬ家こ  
 とあひくやれとせしむとあやしくなれぬ家こ  
 ぬまゝこの新といわたりくみゆりて一番  
 乃流くもゆきとせしむら此實といひゆりゆり  
 たまへておなまゝゆりやわ定り畢

二番

左勝

前大納言實定卿

<sup>十載</sup>心むらうふうはひさひさなるを思ふいふすくみ次幕の雲子

右

備中権守重家卿

のみらとぬち心風ふれきしあゝと涙あけび波を雲の  
たすけ浦はつひすくみと次幕乃園ちせの  
心むらうふうはひさひさなるを思ふいふすくみ次幕の雲子  
みまうとぬち心風ふれきしあゝと涙あけび波を雲の  
たすけ浦はつひすくみと次幕乃園ちせの  
心むらうふうはひさひさなるを思ふいふすくみ次幕の雲子  
しんむらうふうはひさひさなるを思ふいふすくみ次幕の雲子  
たすけ浦はつひすくみと次幕乃園ちせの  
心むらうふうはひさひさなるを思ふいふすくみ次幕の雲子

三番

左

権大納言隆季卿

色坂の雲のいさかやぬれあきて本れ幕のてふ風つひ

右勝

清輔朝臣

波乃とありみらとぬち心風ふれきしあゝと涙あけび波を雲の  
たのすけ浦はつひすくみと次幕乃園ちせの  
心むらうふうはひさひさなるを思ふいふすくみ次幕の雲子  
みまうとぬち心風ふれきしあゝと涙あけび波を雲の  
たのすけ浦はつひすくみと次幕乃園ちせの  
心むらうふうはひさひさなるを思ふいふすくみ次幕の雲子  
しんむらうふうはひさひさなるを思ふいふすくみ次幕の雲子  
たのすけ浦はつひすくみと次幕乃園ちせの  
心むらうふうはひさひさなるを思ふいふすくみ次幕の雲子  
みまうとぬち心風ふれきしあゝと涙あけび波を雲の  
たのすけ浦はつひすくみと次幕乃園ちせの  
心むらうふうはひさひさなるを思ふいふすくみ次幕の雲子  
しんむらうふうはひさひさなるを思ふいふすくみ次幕の雲子  
たのすけ浦はつひすくみと次幕乃園ちせの  
心むらうふうはひさひさなるを思ふいふすくみ次幕の雲子

くみお山のたふひつらなましいはまの心  
そむおがつらあきあおむらんとはやゆり  
うらぬれうの念れうとやゆりあむらん中  
ちの橋

四番

左勝

権大納言實房卿

千載

清見う実よ三浦うしゆ舟の嵐うさうさなま系なるきり

右

右中将實家卿

道面よ紅糸はゆれあわさけさやめくみゆささゆ  
左舟の朝いれあつしくゆあし一糸の舟さ  
ゆはゆれとされとさうみう実れあさきなれ  
さばさゆ人本の糸とあゆやらん事やいふ  
けすうさうひゆりうさむげふせなれあさ

あひなとみかうじ事あれは維よとさのめう  
は右舟とんいおうくかゆらばあゆ板の雲や  
秋とやゆひる事うさうさい川あゆ実よと  
ありぬうらんとねあまたまうてとさうと程  
たうくゆきとるあさ橋

五番

左

左衛門督兼國卿

鳥羽のぬさやらうとふりみら紫と雲ち神や我りのとさ

右勝

右系権左文頼政朝臣

千載

都み海と雲あうてみめととみら花とく白川の雲  
た舟ととと山あさやらうとさうと雲と雲りう  
やなとと家んのやゆりくみゆらと末のゆや  
あうくやゆりうとやちあは枝能因法師の秋

そ吹あし川の園とつり年とをまてくわやうり  
よみのんやわのわくくい侍ととれよ白れは  
うしこのたまーくくくくくくくくくくくく  
とたたりあまもくたうくくくくくくくくくく  
りけしんほそくくくくくくくくくくくくく  
うききくくくくくくくくくくくくくくくく

六番

左持

左大弁實徳卿

わじしやな坂ののみら紫のむけりくくくくく  
右 左中將澄房約良

十載

なれぬりくくくくくくくくくくくくく  
あしつうくくくくくくくくくくくくく  
かとしくくくくくくくくくくくくく  
くめくくくくくくくくくくくくく

七番

左勝

左中將実守朝臣

おれんは実守のみまは向まてくくくくく  
右 左馬権从隆信

ゆまの山りみらあま精るる嵐とくくくくく  
たす実まもあ神よま向とれしてあやりくく  
こいやはわじしくかまも右あま実あまま精  
くくくくくくくくくくくくくくくくく  
とあやうにゆくとお集すてくくくくくく



おはろ〜とあはれ〜とねらうつしねやもやう  
つよねしの山とさびら〜とめがらふつよしの  
まておたゑる徳や定りやゆ〜と

### 八番

凡

左少将脩範朝臣

おはろ〜とみからたれし法に〜とあ〜とねらうつしねやもやう

右勝

左少将通親朝臣

おはろ〜とみからたれし法に〜とあ〜とねらうつしねやもやう  
おはろ〜とみからたれし法に〜とあ〜とねらうつしねやもやう  
おはろ〜とみからたれし法に〜とあ〜とねらうつしねやもやう  
おはろ〜とみからたれし法に〜とあ〜とねらうつしねやもやう  
おはろ〜とみからたれし法に〜とあ〜とねらうつしねやもやう

### 九番

凡持

散位盛方朝臣

おはろ〜とみからたれし法に〜とあ〜とねらうつしねやもやう

右

勘解由次官親宗

おはろ〜とみからたれし法に〜とあ〜とねらうつしねやもやう

おはろ〜とみからたれし法に〜とあ〜とねらうつしねやもやう  
おはろ〜とみからたれし法に〜とあ〜とねらうつしねやもやう  
おはろ〜とみからたれし法に〜とあ〜とねらうつしねやもやう  
おはろ〜とみからたれし法に〜とあ〜とねらうつしねやもやう  
おはろ〜とみからたれし法に〜とあ〜とねらうつしねやもやう  
おはろ〜とみからたれし法に〜とあ〜とねらうつしねやもやう  
おはろ〜とみからたれし法に〜とあ〜とねらうつしねやもやう  
おはろ〜とみからたれし法に〜とあ〜とねらうつしねやもやう  
おはろ〜とみからたれし法に〜とあ〜とねらうつしねやもやう  
おはろ〜とみからたれし法に〜とあ〜とねらうつしねやもやう

浦をぬくやとくはなほとやとつゝ朝とあす  
つゝおとく定りけりあめ

十番

左勝

散位季廣

夜を深きらぬよひともみゆら繁くらの雲らとほ雲の

右

伊豆守仲徳

わが飯の雲れとつめいらほきちと梢のひらぶとつゝふり  
右のすへ八番のちのちりりつゝとつゝとつゝとつゝ  
しをたつらつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝ  
繁りりわらつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝ  
くみもほりつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝ  
はむれは繁きあつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝ  
しのふはつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝ

程ねがつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝ

一番 水鳥近剛

左持

公通卿

なまこにまのつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝ

右

後成卿

君の代とのつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝ  
左のすへつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝ  
ちりさつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝ  
わやつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝ  
くねつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝ  
まにあつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝ  
つゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝ  
つゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝとつゝ

しるるりみまいつくを備し綱なまこしんが又とま  
つらゆらんきさあみれいりいりまきとゆいあ  
りあまの何とあしあ討の事なれしうら  
くもゆくもいりいりいりいりいりいり  
りいりいりいりいりいりいりいりいり  
まの行り流らうは志くあしてゆい絆と  
おや好く事あといと後しはあといと  
ありしこそあといりいりいりいりいり

二番

左

実定卿

水鳥より泥ねの奈となすゆきと離きとあすき

右勝

重家卿

池より波をのりりりりりりりりりりりりりりりり

左より右の床となすあわれいりいりいり  
りいあれていりいりいりいりいりいりいり  
とたはられしむらあなすのりりりりりりりり  
みいりいりいりいりいりいりいりいりいり  
もあめいりいりいりいりいりいりいりいり  
舟よりいりいりいりいりいりいりいりいり  
はらりいりいりいりいりいりいりいりいり  
よ

三番

左持

隆季卿

小舟漕人のあはりいりいりいりいりいりいり

右

清輔朝臣

と鳥羽のあはりいりいりいりいりいりいり

たすきをいひたるをいひておとすか  
うけすまゝいひたれし一かたも有れば由ひら  
おねんりそく近くされおねんたしなるを驚こ  
このつうりおとつれはくつるをまふとにら  
るまゝいひたるをいひてかへくつとととて  
りつとつられおとすまゝいひておねんたし  
ひとほおふおとすまゝいひたれしなるを  
のまもまゝいひておとすまゝいひたれし

四番

左

實房卿

小舟漕ぎのりかたなはゆるしむはゆるしぬらするおねんたし  
右勝 實家卿

たつとてはくはゆるしぬらするおねんたし

おねんたしなるをいひておとすまゝいひたれしなるを驚こ  
このつうりおとつれはくつるをまふとにら  
るまゝいひたるをいひてかへくつとととて  
りつとつられおとすまゝいひておねんたし  
ひとほおふおとすまゝいひたれしなるを  
のまもまゝいひておとすまゝいひたれし

五番

左

實四卿

あやの池れはくはゆるしぬらするおねんたし  
右勝 實政卿

あやの池れはくはゆるしぬらするおねんたし

ちあつた文弁合ぬの鶴れ毛衣とこそりくも  
よめすも難くぬれ事なりやんやんゆり  
そのこと繁あまの鶴乃毛衣年ぬこと  
とたつらふとわ色ぬかると多の毛と衣やす  
のされぬ文選の鶴鶴賦よみそりれ衣あま  
る衣乃らひなると我作これ又又よこの紙紙の  
も毛衣中つらつら海の中に先考考つらもす  
とつら事とあまんとこの毛衣とつらつら  
らつら答あらしやたぬあつて毛衣よとつら  
も難あつ海つらつらつらつらつらつらつら  
れゆつらつらつらつらつらつらつらつら  
めつらつらつらつらつらつらつらつらつら  
まつらつらつらつらつらつらつらつらつら

とんぬ

六番

左勝

實繼卿

毎にひあ入るよすつ鴨毛たあつらつらつらつら

右

隆房卿

岸近とあ海ぬあようさねてさつらつらつらつら  
たちとにむつらつらつらつらつらつらつら  
ゆよたさあつらつらつらつらつらつらつら  
まらつらつらつらつらつらつらつらつら

七番

左

実守朝臣

そつらつらつらつらつらつらつらつらつら

右勝

隆信

八番

左持

脩花朝長

長あるはひりしきやまもつらむらぬとてなごつらむらぬ  
たのち桐花のつらむらぬとてなごつらむらぬ  
まはるきつらむらぬとてなごつらむらぬ  
らむらぬとてなごつらむらぬとてなごつらむらぬ  
けつらむらぬとてなごつらむらぬとてなごつらむらぬ  
しなごつらむらぬとてなごつらむらぬとてなごつらむらぬ  
しなごつらむらぬ

右

通視朝長

めなれむや鴨のうらむらぬとてなごつらむらぬ  
らむらぬとてなごつらむらぬとてなごつらむらぬ  
らむらぬとてなごつらむらぬとてなごつらむらぬ  
らむらぬとてなごつらむらぬとてなごつらむらぬ

九番

左持

盛方朝長

うらむらぬとてなごつらむらぬとてなごつらむらぬ  
らむらぬとてなごつらむらぬとてなごつらむらぬ  
らむらぬとてなごつらむらぬとてなごつらむらぬ  
らむらぬとてなごつらむらぬとてなごつらむらぬ

右

親宗

池をたのむとてなごつらむらぬとてなごつらむらぬ  
らむらぬとてなごつらむらぬとてなごつらむらぬ  
らむらぬとてなごつらむらぬとてなごつらむらぬ  
らむらぬとてなごつらむらぬとてなごつらむらぬ  
らむらぬとてなごつらむらぬとてなごつらむらぬ  
らむらぬとてなごつらむらぬとてなごつらむらぬ  
らむらぬとてなごつらむらぬとてなごつらむらぬ

又為物

十番

左

季廣

目録をけなれはるるにき河鴨のこえの音と辨ふ件

右勝

仲繼

松川のいよなるをけなれはるるにき河鴨のこえの音と辨ふ件  
左勝もあつてけなれはるるにき河鴨のこえの音と辨ふ件  
右勝もあつてけなれはるるにき河鴨のこえの音と辨ふ件  
けなれはるるにき河鴨のこえの音と辨ふ件

一番 臨期違約懲

左

公通卿

ちりしめりてけなれはるるにき河鴨のこえの音と辨ふ件

右勝

後成卿

千載

ちりしめりてけなれはるるにき河鴨のこえの音と辨ふ件

ちりしめりてけなれはるるにき河鴨のこえの音と辨ふ件  
ちりしめりてけなれはるるにき河鴨のこえの音と辨ふ件  
ちりしめりてけなれはるるにき河鴨のこえの音と辨ふ件  
ちりしめりてけなれはるるにき河鴨のこえの音と辨ふ件  
ちりしめりてけなれはるるにき河鴨のこえの音と辨ふ件  
ちりしめりてけなれはるるにき河鴨のこえの音と辨ふ件

二番

左

實定卿

ちりしめりてけなれ道芝れ為分りてけなれはるるにき河鴨のこえの音と辨ふ件

右

實家卿

ちりしめりてけなれ道芝れ為分りてけなれはるるにき河鴨のこえの音と辨ふ件  
ちりしめりてけなれ道芝れ為分りてけなれはるるにき河鴨のこえの音と辨ふ件  
ちりしめりてけなれ道芝れ為分りてけなれはるるにき河鴨のこえの音と辨ふ件  
ちりしめりてけなれ道芝れ為分りてけなれはるるにき河鴨のこえの音と辨ふ件  
ちりしめりてけなれ道芝れ為分りてけなれはるるにき河鴨のこえの音と辨ふ件  
ちりしめりてけなれ道芝れ為分りてけなれはるるにき河鴨のこえの音と辨ふ件

ひたやゆりたるに右秋の詞とつらうとて越の中と  
もつらとゆれと平しかかかん事いふとてあつ  
ゆい後あうもたすらんれと左弁正平よふい  
あつとゆらうのよ

三番

左

隆季卿

流来といふらよふらよふの福とよふはらのがたふ

右勝

清浦朝臣

神をそつらうとつらうとつらうとつらうとつらうとつらう  
た弁深羽うゆらうとつらうとつらうとつらうとつらう  
いふの中なふとつらうとつらうとつらうとつらうとつらう  
とつらうとつらうとつらうとつらうとつらうとつらう  
とつらうとつらうとつらうとつらうとつらうとつらう

四番

左

真房卿

ひととゆらうとつらうとつらうとつらうとつらうとつらう  
とつらうとつらうとつらうとつらうとつらうとつらう

今やさし清とつらうとつらうとつらうとつらうとつらうとつらう

右勝

真家卿

わひはつゆらうとつらうとつらうとつらうとつらうとつらう  
いふたわとつらうとつらうとつらうとつらうとつらうとつらう  
事よさつゆらうとつらうとつらうとつらうとつらうとつらう

五番

左持

實四卿

はよ衣さあつらうとつらうとつらうとつらうとつらうとつらう

右

頼政朝臣

建春に防左面

十一



いふおちまゝのむらさきにひたむくはひいひいひい  
たの後よみまゝやたのつるまのむらさきにひたむく  
おのりりる右弁修朝のむらさきにひたむく近はる  
えのりりるむらさきにひたむくむらさきにひたむく  
むらさきにひたむくむらさきにひたむくむらさきにひ  
むらさきにひたむくむらさきにひたむくむらさきにひ  
なまはねるむらさきにひたむくむらさきにひたむく  
そいれおのりりるむらさきにひたむくむらさきにひ  
る方ひたむくむらさきにひたむくむらさきにひたむ  
えのりりるむらさきにひたむく

右番

左勝

實總卿

あはれおのりりるむらさきにひたむくむらさきにひたむく

右

降房初旨

いふおちまゝのむらさきにひたむくむらさきにひたむく  
たの末のむらさきにひたむくむらさきにひたむく  
むらさきにひたむくむらさきにひたむくむらさきにひ  
むらさきにひたむくむらさきにひたむくむらさきにひ

七番

左勝

實守初旨

いふおちまゝのむらさきにひたむくむらさきにひたむく  
むらさきにひたむくむらさきにひたむくむらさきにひ

右

隆信

むらさきにひたむくむらさきにひたむくむらさきにひ  
むらさきにひたむくむらさきにひたむくむらさきにひ  
むらさきにひたむくむらさきにひたむくむらさきにひ  
むらさきにひたむくむらさきにひたむくむらさきにひ  
むらさきにひたむくむらさきにひたむくむらさきにひ  
むらさきにひたむくむらさきにひたむくむらさきにひ  
むらさきにひたむくむらさきにひたむくむらさきにひ

とわかれさむらひさるはなはかとりつらゆきはしほあ  
のまろあはゆりあまわりのくもはなはなはな  
なとよ新の事目ころたけりゆりたはる揚さ

八番

左持

脩範約信

あまの河洲ぬあな中かた昨日のあまあまよりりあま

右

通親朝臣

<sup>十載</sup>いふきりくさたらめなまきまきまきまきまきまきま  
た新あはつあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
くもたけりくゆゆりたれそくまのあまのあまのあま  
はとしてまあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
のりたはらうくゆりあまのあまのあまのあまのあまの  
十のりあまの持とまを

九番

左勝

盛方朝臣

<sup>十載</sup>拙河れあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

右

親宗

うむらゆきあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
た海朝たけりくゆゆりたれそくまのあまのあまのあまの  
やいむらうりくゆゆりたれそくまのあまのあまのあまの  
未んたけりくゆゆりたれそくまのあまのあまのあまのあまの  
介とまのあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの  
る相とあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

十番

左持

季廣

照月のたけりあまのあまのあまのあまのあまのあまのあまの

右

仲繼

此書はぬりありてその玉葉はきりかたしと今とつらつら  
 たり新朝の代りありてかたしと今とつらつら右  
 ありといふゆゑに新朝の代りありてかたしと今とつらつら  
 りといふゆゑに新朝の代りありてかたしと今とつらつら  
 りといふゆゑに新朝の代りありてかたしと今とつらつら

左方

右方

公通卿

俊成卿

實定卿

重家卿

持二 勝一 負一

勝一 持二 負一

隆季卿

清輔朝臣

持一 負二

持一 勝二

實房卿

實家卿

勝一 負二

勝一 負二

實國卿

頼政朝臣

持一 負二

勝一 持二

實經卿

澄房朝臣

勝一 負二

勝一 負二

實守卿

隆信

勝一 負二

勝一 負二

脩範朝臣

通親朝臣

持一 負二

勝一 持二

盛方朝臣

親宗

持一 負二

勝一 負二

季廣

仲繼

持一 負二

勝一 持二 負一

